

消費者の声を生産者へ

販売キャンペーン

リンゴ販売キャンペーン開催

当JAでは職員によるリンゴ販売キャンペーンが行われた。11月8日～9日まで三沢地区、14日～15日まで天間林、東北町、16日～17日まで下田地区にて各地区2日間行われた。また、11月16日から12月7日まで、当JA湯口支所グリーンプラザにてりんごまつりも開催された。キャンペーンは毎年行われており、各地域の消費者はこの相馬産リンゴが販売されるのを楽しみにしている。毎年この時期になると各支所にはりんごまつりの開催期間の問い合わせが多く、相馬産のリンゴの需要が高まっていると伺える。



東北町キャンペーン



下田キャンペーン



JA相馬村りんごまつり



三沢キャンペーン

消費者を

目の前に感じたニーズ

各会場では、職員が来場者と対話しながら販売を行った。その中で消費者は、どのようなところに注目して購入しているのか気になった。

一つ目は着色具合を見て購入している事である。消費者の半分以上は赤い品種の「ふじ」を購入する人が多く、その中でも赤色の鮮やかさや、濃さに注目していた。購入する人の中には「赤い方が美味しいよね?」「このくらい赤いと大丈夫だよね?」などを聞く人も多かった。そのため一目見て赤いものを買いたい求める人が多く見られた。

二つ目は大きさである。家庭用でも食べられるサイズなどには注目せずに、大きいものを選んでる印象であった。だが、毎年購入していく人は、経験からか、食べられるサイズのものを選んでる傾向のようだ。大きい方を重点に買って行く人は、「大きい方が、良い生育をして味も良いイメージ」と言っていた。



より良いりんごを求めて品定めする生産者



今年のリンゴの出来を尋ねる消費者もいた



贈答用の作業に追われる作業員ら



良い色をしたリンゴが多く迷う消費者

今年は隔年結果や春の強風などの影響により、リンゴの収量が少なかったが、糖度が高く「おいしい」という声が多かったことから、お客様に気持ちよく購入して頂くことが出来た。



相馬管内の生産者が自慢の飛馬りんごを多く売り出していた

三つ目は食味。会場では売りに出しているリンゴの試食も行なってもらい、訪れた方に「とても甘くて美味しい」「シヤキシヤキしてサツパリする」などの感想をもらうことが出来た。

一部では、以前「王林」に対するモサツとした軟質化した食感が気になったという消費者がいたが、今年の王林の試食を勧めてみたところ、「この食感なら好き」と、試食してからの購入が多く見られた。

こうして毎年販売しに各地へ行っていると、その地域の方は相馬産りんごを毎年とても楽しみにしているのを一番感じられた。

リンゴを食べて美味しいうつ声は生産者を喜ばすだけでなく、食べた人の気持ちも喜ばせているんだと確認することが出来た。

毎年こうして様々な地域へ行き販売させてもらい、消費者の方の声を聞いてはいるが、生産者の声として、今年の出来映えや、収穫までの過程などの話をもっと消費者へ届けることが出来ればいいと感じた。